ＨＡＴＳ－Ｐ－００２－Ｖ１．０

ＰＢＸ間相互接続試験実施要領

－共通チャンネル形信号方式－

ＨＡＴＳ推進会議
（高度通信システム相互接続推進会議）
ＰＢＸテレコムサーバ相互接続試験実施連絡会

ＰＢＸ間相互接続試験実施要領　－共通チャンネル形信号方式－

改定履歴

版	改定年月日	改定内容	担当
0.0	1997年9月9日	ＴＴＣにてTTC-G-003-V2 として制定	伊藤
1.0	2007年3月31日	ＴＴＣより譲渡	伊藤

本書は、ＴＴＣがガイドラインとして制定･管理していたものをＨＡＴＳ推進会議（以下、ＨＡＴＳという。）に譲渡されたものであり、ＨＡＴＳが著作権を保有しています。
内容の一部または全部をＨＡＴＳの許諾を得ることなく複製、転載、改変、転用及びネットワーク上での送信、配布を行うことを禁じます。

ＴＴＣ－Ｇ－００３－Ｖ２

ＴＴＣ相互接続実施ガイドライン

PBX間相互接続試験
実施ガイドライン
－共通チャネル形信号方式－

第２版
１９９７

保存版

社団法人
電信電話技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

ＴＴＣ－Ｇ－００３－Ｖ２

ＴＴＣ相互接続実施ガイドライン

PBX間相互接続試験
実施ガイドライン
-共通チャネル形信号方式-

第２版
１９９７

社団法人
電信電話技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

ＴＴＣ相互接続試験実施ガイドライン改版履歴

（ＰＢＸ相互接続試験実施ガイドライン　－共通チャネル形信号方式－）

版　数	制　定　日	改　版　内　容
第１版	１９９２年１０月２９日	制　定
第２版	１９９７年　９月　９日	ＪＳ－１１５７２及び発番号情報の追加による変更

©社団法人電信電話技術委員会　１９９７

目　次

第１章　目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第２章　相互接続試験の対象範囲　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

　2．1　試験対象機器　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

　2．2　接続形態　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

　2．3　試験対象サービス　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

　2．4　準拠すべき標準　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第３章　相互接続試験の実施形態　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第４章　相互接続試験参加の前提条件　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第５章　試験実施方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

　5．1　事前確認　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

　5．2　実施場所　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

　5．3　試験の実施　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

　5．4　相互接続試験手順等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

第６章　試験結果の取りまとめとその後の手続き　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

　6．1　試験結果の取りまとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

　6．2　ＴＴＣ標準準拠表示について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

別紙１　・・・・・・・・・・　9　～　24

別紙２　・・・・・・・・・・　25　～　29

別紙３　・・・・・・・・・・　30　～　34

別紙４　・・・・・・・・・・　35

別紙５　・・・・・・・・・・　36

第１章　目的

国際電気通信連合（ＩＴＵ）での国際的な標準化、㈳電信電話技術委員会（ＴＴＣ）での国内標準の作成ならびに商用サービスの開始等を契機として、我が国でのＩＳＤＮ利用は着実に拡大している。

私設網におけるＩＳＤＮサービスの提供は、ＰＢＸ利用範囲を大きく拡大するものであり、国内標準化機関としてのＴＴＣにおいてもＰＢＸに関する標準化活動が活発に行っており、ＰＢＸ間ディジタルインタフェース（共通チャネル形信号方式）についての国内標準としてＪＴ－Ｑ９２１－ａ，ＪＴ－Ｑ９３１－ａ等を平成２年に制定した。

また、その後、ＰＢＸ間ディジタルインタフェースの国際標準であるＩＳＯ／ＩＥＣ１１５７２を国内標準ＪＳ－１１５７２として平成７年に制定した。

上記基準などに基づく製品が各製造業者から製造・販売される中で、各ユーザのＰＢＸ導入を円滑に促進するためには、各製造業者間での相互接続性の確保が必要不可欠であるが、製品化初期においては、標準に準拠して製造される製品同士でも異なる製造業者間での相互接続性が確保されない場合があり、相互接続性の確保が重要な課題となっている。

本ガイドラインは、このような状況を鑑み、各社が製造するＰＢＸ間での共通チャネル形信号方式による相互接続性を確保するため実施すべき相互接続試験の内容、手順等について規定するものである。

今後、通信機械工業会が事務局を務める「ＰＢＸ相互接続試験実施連絡会」等の相互接続実施機関（自ら相互接続試験を実施するものを含む）等において、本ガイドラインにしたがった相互接続試験が実施されることを通じて、我が国におけるＰＢＸの普及に向けた環境整備が発展するとともに、標準の実効性、新たな標準への反映等に資するものである。

第２章　相互接続試験の対象範囲

ＰＢＸの相互接続性は、相互のＰＢＸに端末を接続し、端末－端末間での相互接続性を確認することを通じてＰＢＸのＴ点インタフェースの機能を間接的に確認するものとする。

２．１　試験対象機器

ＩＳＤＮサービスを提供するＰＢＸ（ボタン電話を含む）であり、２．４に示す標準（共通チャネル形信号方式等）に準拠するよう開発された装置とする。

２．２　接続形態

・ＰＢＸ間にＩＳＤＮ公衆網（例えば、ＩＮＳネット１５００）を介して半固定リンク（Ｈ０／Ｈ１チャネル）を設定し、そのリンク上で共通チャネル形信号方式による接続試験を行う。
図１に接続形態を示す。

・半固定リンクの設定方法は試験参加会社の自由であるが、具体的には図２に示す二つの方法が考えられる。
①試験機によりＤｃｈ信号で半固定リンクを設定する。（図２左側）
②ＰＢＸに半固定リンク設定機能を備える。（図２右側）

図１　相互接続試験形態

ＩＳＤＮ公衆網
(INSネット等)
24B
24B
PBX
H0/H1
H0/H1
H1
H0
H1
H0
24B
23B+D
H0
H0
H1端末
H0端末
H0
H0
H1端末
H0端末
H0
H0
TEL
ﾃﾞｰﾀ
G4FAX
B
B
Dp
B
B
Dp
TEL
ﾃﾞｰﾀ
G4FAX
D
D
試験機
2B+D/23B+D
端末
Ａ社／Ｂ社
Ａ社／Ｂ社

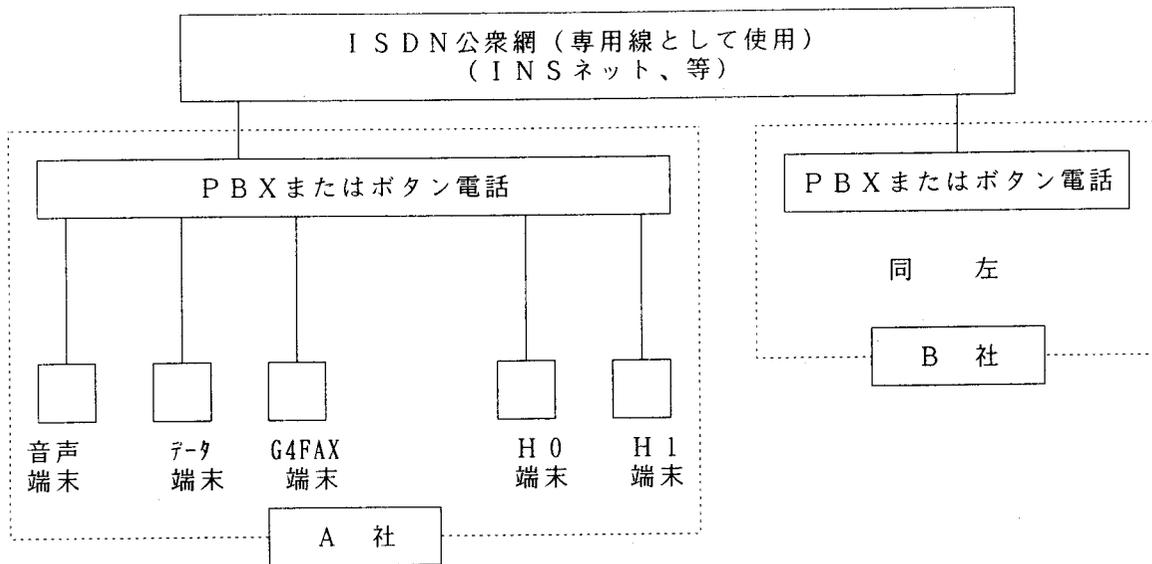
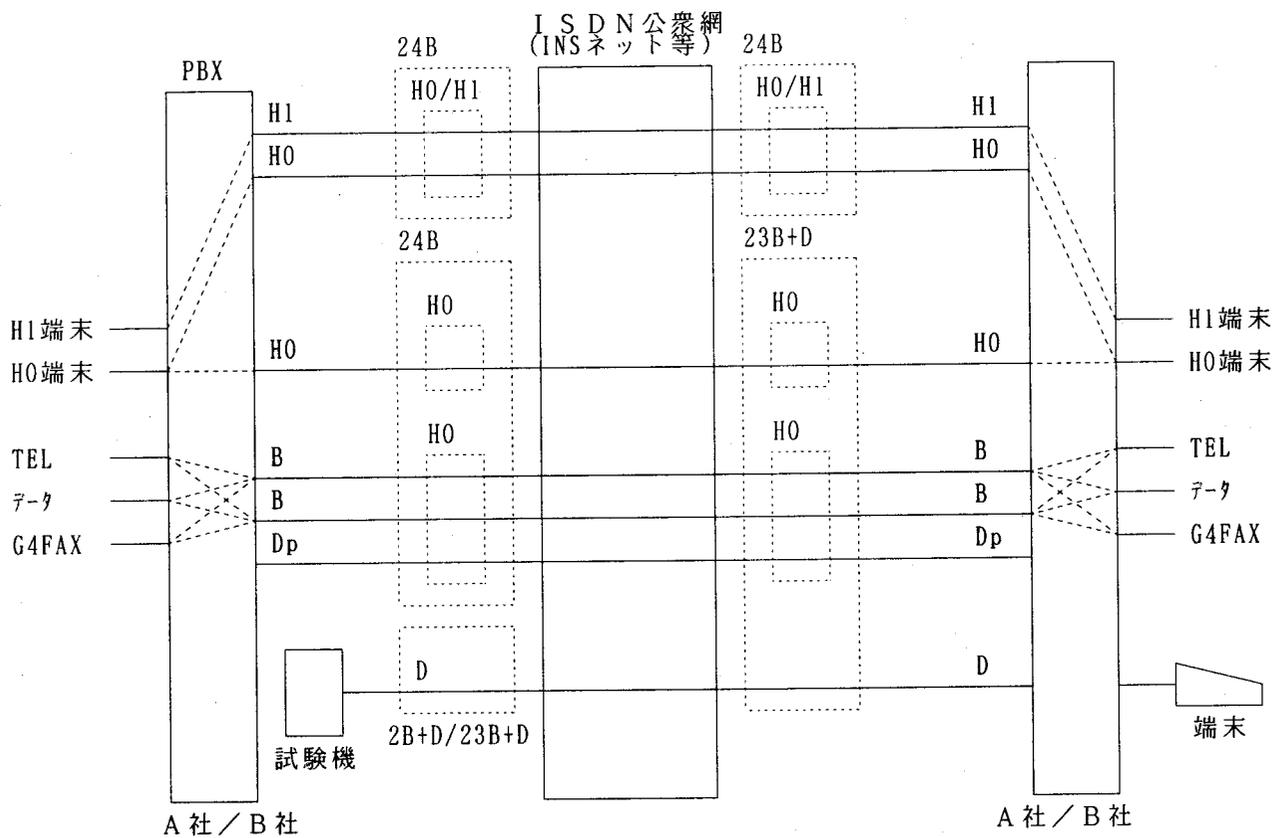



図２　半固定リンク設定方法

２．３　試験対象サービス

・音声／データ／Ｇ４ファクシミリの回線交換サービス
・Ｈ０（３８４Ｋ）／Ｈ１（１５３６Ｋ）の回線交換サービス
（注）試験対象サービスは製品の実装により決定される。

２．４　準拠すべき標準

・ＴＴＣ標準　ＪＴ－Ｑ９２１－ａ　PBX 間ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙｲﾝﾀﾌｪｰｽ（共通ﾁｬﾈﾙ形信号方式）－レイヤ２仕様－
・ＴＴＣ標準　ＪＴ－Ｑ９３１－ａ　PBX 間ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙｲﾝﾀﾌｪｰｽ（共通ﾁｬﾈﾙ形信号方式）－レイヤ３仕様－
・ＴＴＣ標準　ＪＳ－１１５７２　私設総合サービス網（回線交換ﾍﾞｱﾗｻｰﾋﾞｽ）
－ＰＢＸ間信号プロトコルレイヤ３仕様－
（注）相互接続試験の実施に関し以下の標準を参考のため記載する。
・ＴＴＣ標準　ＪＪ２０．２０　PBX 間ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙｲﾝﾀﾌｪｰｽ（共通ﾁｬﾈﾙ形信号方式）－概説－
・ＴＴＣ標準　ＪＪ２０．２１　PBX 間ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙｲﾝﾀﾌｪｰｽ（共通ﾁｬﾈﾙ形信号方式）－接続構成－
・ＴＴＣ標準　ＪＪ２０．２２　PBX 間ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙｲﾝﾀﾌｪｰｽ（共通ﾁｬﾈﾙ形信号方式）－ｻｰﾋﾞｽ条件－
・ＴＴＣ標準　ＪＴ－Ｉ４３１－ｃ　PBX 間ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙｲﾝﾀﾌｪｰｽ（共通ﾁｬﾈﾙ形信号方式）
－一次群速度レイヤ１仕様－

第３章　相互接続試験の実施形態

相互接続試験の実施形態は以下の５形態に分類される。

①音声サービス相互接続試験
ＰＢＸに収容された音声端末相互の接続を行い、その通話の正常性を確認する。
②データサービス相互接続試験
ＰＢＸに収容されたデータ端末相互の接続を行い、その通信の正常性を確認する。
③Ｇ４ファクシミリサービス相互接続試験
ＰＢＸに収容されたＧ４ＦＡＸ相互の接続を行い、その通信の正常性を確認する。
④Ｈ０（３８４Ｋ）サービス相互接続試験
ＰＢＸに収容されたＨ０（３８４Ｋ）端末相互の接続を行い、その通信の正常性を確認する。
⑤Ｈ１（１５３６Ｋ）サービス相互接続試験
ＰＢＸに収容されたＨ１（１５３６Ｋ）端末相互の接続を行い、その通信の正常性を確認する。

第４章　相互接続試験参加の前提条件

相互接続試験参加にあたっては、以下の条件を前提とする。

（１）ＩＳＤＮの実回線（一次群速度）を敷設できていること。

（注）回線契約にあたっては、試験相手の確認のため発信者番号の送出を可とすること。

（２）本相互接続試験実施前に公衆網（例えばＩＮＳネット１５００）を介した半固定リンクの設定、およびその上での共通チャネル形信号方式による接続試験を終了していること。

（３）相互接続試験で使用する端末は、電話、ＴＡ等のＩＳＤＮ端末相互接続試験が終了した機種または同等のものに限るとする。

第５章　試験実施方法

５．１　事前確認

試験参加各社は、送信完了、伝送能力（ＢＣ）、チャネル識別子、低位レイヤ整合性（ＬＬＣ）、高位レイヤ整合性（ＨＬＣ）、トラベリングクラスマーク（ＴＣＭ）のコーディング、条件リストについて、事前に情報交換を行う。

（参考として、コーディングの様式を別紙１－１～１－８、条件リストを別紙２－１～２－５に示す。なお、これらの様式の内容は、試験内容の変化等に応じ、相互接続機関等で適宜変更されるものである。）

５．２　実施場所

試験に参加する各製造業者の試験場所とする。

５．３試験の実施

５．３．１　試験での留意点

試験の実施にあたっては、以下のことに留意する。

・発信者は着信者の試験時連絡先に電話連絡し、基本的には試験中は接続したままとするなど、円滑な試験実施に務めること。

・効率的に試験を実施するため、トラブルの有無に関らず、各試験を一定時間内に終了すべきである。

５．３．２　各試験での共通手順等

各試験に共通の手順等を以下に示す。

・原則として、各製造業者等の試験対象機器の総当たりにより試験を実施する。

・着番号情報は、試験参加者間で仮の局番を付与し、発信者は着信者に対して局番（例えば７×）と内線番号を送出するものとする。

・試験参加者間で発信番号通知を実施する場合の、発番号情報は、あらかじめ試験参加者間で取り決めた番号を送出するものとする。

・サブアドレスを使用した着信試験は実施しない。

・公衆網（例えばＩＮＳネット１５００）を経由して行う半固定リンクのパス接続は、以下のようにして実施する。

①Ａ社の試験機または端末から、Ｄｐチャネルを含む第１のＨ０で発信し、Ｂ社側の試験機または端末で応答する。

②Ａ社の試験機または端末から、第２のＨ０／Ｈ１で発信し、Ｂ社側の試験機または端末で応答する。（Ｈ０／Ｈ１サービスの場合のみ実施）

③第２のＨ０／Ｈ１版固定リンクの設定にあたっては、Ｈ０サービスならＨ０リンクを、Ｈ１サービスならＨ１リンクを設定する。

（注）

・第１のＨ０リンクで設定される５Ｂ＋Ｄｐのインタフェースは、Ｄｐチャネル上でインタフェースＩＤ＝０（省略可）として識別される。第２のＨ０またはＨ１リンクで設定されるＨ０／Ｈ１のインタフェースは、インタフェースＩＤ＝１（省略不可）として識別される。それぞれのインタフェースにおいてチャネル番号は、タイムスロットの若番から１，２，３，４，５，６‥（、…、２４）とする。

・Ｄｐチャネルは、第１のＨ０リンクの最終チャネルとし、ＰＢＸ間でやりとりするチャネル番号は、タイムスロットの若番から１，２，３，４，５とする。

・試験終了までは、対向の半固定リンクのパス接続を開放しないこと。

・レイヤ２については、第１のＨ０発信の発信側を網側とし着信側をユーザ側とする。

・共通チャネル設定にあたっての条件は、別紙２－１によるものとする。

５．４相互接続試験手順等

５．４．１　音声サービス相互接続試験

（１）事前確認項目

発信時の呼設定メッセージの送信完了、ＢＣ、チャネル識別子、ＨＬＣ、ＬＬＣ、ＴＣＭを事前に確認すること。（参考として、チェックリストを別紙１－１、別紙１－６に付す。）

（２）試験項目

発信／着信／受話音量／受話音質を確認する。

（参考としてチェックストを別紙３－１に付す。）

（３）試験手順

<パターン１>

①Ａ社より発信し、Ｂ社を呼び出し、Ｂ社側端末で応答する。

②両方向の通話が正常にできることを確認する。

<パターン２>

①Ｂ社より発信し、Ａ社を呼び出し、Ａ社側端末で応答する。

②両方向の通話が正常にできることを確認する。

５．４．２データサービス相互接続試験

（１）前提条件

データサービス相互接続試験で使用する端末は、電話、ＴＡ等のＩＳＤＮ端末相互接続試験（Ｖ．１１０同期）が終了した機種、または同等のものに限るとする。

（２）事前確認項目

発信時の呼設定メッセージ中の送信完了、ＢＣ、チャネル識別子、ＨＬＣ、ＬＬＣ、ＴＣＭを事前に確認すること。（参考として、チェックリストを別紙１－２、別紙１－７に付す。）

（３）試験項目

発信/ 着信/ データ送受信を確認する。

（参考としてチェックリストを別紙３－２に付す。）

（４）試験手順

<パターン１>

①Ａ社よりＢ社端末へ発信する。

②Ｂ社着信端末への着信後、通信に入り、通信が継続することを確認する。

ｉ）速度整合の相互接続性確認

発信側からリモートＲ点折り返しループテストを実施し、モデムテスターでビットエラー率を確認する。（ビットエラー率は、速度整合性を確認できる程度にとどめる。）

ii）試験条件

①別紙２－２による。

②信号送出時間は１分間程度とする。

＜パターン２＞（パターン１終了後、速やかに実施する。）

①Ｂ社よりＡ社端末へ発信する。

②Ａ社着信端末への着信後、通信に入り通信が継続することを確認する。

ｉ）速度整合の相互接続性確認

発信側からリモートＲ点折り返しループテストを実施し、モデムテスターでビットエラー率を確認する。（ビットエラー率は、速度整合性を確認できる程度にとどめる。）

ii）試験条件

①別紙２－２による。

②信号送出時間は１分間程度とする。

５．４．３　Ｇ４ファクシミリサービス相互接続試験

（１）前提条件

Ｇ４ファクシミリサービス相互接続試験で使用する端末は、ＩＳＤＮ－Ｇ４ＦＡＸ相互接続試験が終了した機種または同等のものに限るとする。

（２）事前確認項目

発信時の呼設定メッセージ中の送信完了、ＢＣ、チャネル識別子、ＨＬＣ、ＬＬＣ、ＴＣＭを事前に確認すること。（参考として、チェックリストを別紙１－３、別紙１－８に付す。）

（３）試験項目

送信／受信を確認する。

（参考としてチェックリストを別紙３－３に付す。）

（４）試験手順

＜パターン１＞

Ａ４　１枚をＡ社から送信しＢ社で受信する。

用紙は、画像電子学会Ｎｏ．４チャート（別紙５）を使用し、解像度は２００×２００ｐｐｉとする。

＜パターン２＞

Ａ４　１枚をＢ社から送信しＡ社で受信する。

用紙は、画像電子学会Ｎｏ．４チャート（別紙５）を使用し、解像度は２００×２００ｐｐｉとする。

５．４．４　Ｈ０サービス相互接続試験

（１）前提条件

Ｈ０サービス相互接続試験で使用する端末は、電話、ＴＡ等のＩＳＤＮ端末相互接続試験が終了した機種または同等のものに限るとする。

（２）事前確認項目

発信時の呼設定メッセージ中のＢＣ、チャネル識別子、ＨＬＣ、ＬＬＣ、ＴＣＭを事前に確認すること。（参考として、チェックリストを別紙１－４に付す。）

（３）試験項目

発信／着信／データ送受信を確認する。

（参考としてチェックリストを別紙３－４に付す。）

（４）試験手順

＜パターン１＞

①Ａ社端末よりＢ社端末へ発信する。

②Ｂ社着信端末への着信後、通信に入り、通信が継続することを確認する。

ｉ）速度整合の相互接続性確認

発信側からリモートＲ点折り返しループテストを実施し、モデムテスターでビットエラー率を確認する。（ビットエラー率は、速度整合性を確認できる程度にとどめる。）

ⅱ）試験条件

①別紙２－３による。

②信号送出時は３分間程度とする。

＜パターン２＞（パターン１終了後速やかに実施する。）

①Ｂ社端末よりＡ社端末へ発信する。

②Ａ社着信端末への着信後、通信に入り、通信が継続することを確認する。

ｉ）速度整合の相互接続性確認

発信側からリモートＲ点折り返しループテストを実施し、モデムテスターでビットエラー率を確認する。（ビットエラー率は、速度整合性を確認できる程度にとどめる。）

ⅱ）試験条件

①別紙２－３による。

②信号送出時は３分間程度とする。

５．４．５　Ｈ１サービス相互接続試験

（１）前提条件

Ｈ１サービス相互接続試験で使用する端末は、電話、ＴＡ等のＩＳＤＮ端末相互接続試験が完了した機種または同等のものに限るとする。

（２）事前確認項目

発信時の呼設定メッセージ中のＢＣ、チャネル識別子、ＨＬＣ、ＬＬＣ、ＴＣＭを事前に確認すること。（参考として、チェックリストを別紙１－５に付す。）

（３）試験項目

発信／着信／データ送受信を確認する。

（参考としてチェックリストを別紙３－５に付す。）

（４）試験手順

＜パターン１＞

①Ａ社端末よりＢ社端末へ発信する。

②Ｂ社着信端末へ着信後、通信に入り、通信が継続することを確認する。

ｉ）速度整合の相互接続性確認

発信側からリモートＲ点折り返しループテストを実施し、モデムテスターでビットエラー率を確認する。（ビットエラー率は、速度整合性を確認できる程度にとどめる。）

ⅱ）試験条件

①別紙２－４による。

②信号送出時は３分間程度とする。

＜パターン２＞（パターン１終了後、速やかに実施する。）

①Ｂ社端末よりＡ社端末へ発信する。

②Ａ社着信端末へ着信後、通信に入り、通信が継続することを確認する。

ｉ）速度整合の相互接続性確認

発信側からリモートＲ点折り返しループテストを実施し、モデムテスターでビットエラー率を確認する。（ビットエラー率は、速度整合性を確認できる程度にとどめる。）

ii）試験条件

①別紙２－４による。

②信号送出時は３分間程度とする。

第６章　試験結果のとりまとめとその後の手続き

６．１　試験結果のとりまとめ

相互接続試験終了後、相互接続実施機関等は試験結果をとりまとめるものとする。（様式の例を別紙３－１～３－５、別紙４に示す。）

当該機関等は、必要に応じ相互接続試験結果を標準活動にフィードバックするものとする。

６．２　ＴＴＣ標準準拠表示について

相互接続試験を実施し良好な試験結果を得た製造業者等が、ＴＴＣ標準準拠表示を行おうとするときには、「ＴＴＣ標準準拠表示取扱要領」にしたがい、同試験の結果を添付した書類をＴＴＣに届け出ることとする。その届出により、本ガイドラインに基づき試験が実施され、所期の試験結果が得られたことをＴＴＣが確認した場合には、当該機器がＴＴＣ標準等に準拠していることを示すＴＴＣマークまたは取扱説明書等へ文章による表示を行うことが可能となる。

別紙１－１（１／２）

会社名

担　当

ＴＥＬ

ＦＡＸ

音声サービス（Ｑ９３１－ａ）

発信時の呼設定メッセージの通信可能性に関する情報要素

［パターン　　／　　］　（複数パターンの場合には、用紙を複写して記入すること。）

伝達能力（ＢＣ）			チャネル識別子		
ｵｸﾃｯﾄ	コーディング		ｵｸﾃｯﾄ	コーディング	
1	00000100	04	1	00011000	18
2			2		
3			3		
4			3. 1		
4 a			3. 2		
4 b			3. 3		
5					
5 a					
5 b					
5 c					
5 d					
6					
7					

［記入上の注意点］

（１）省略されるオクテットには、何も記入せずブランクとすること。

（２）提出する様式には、１枚１枚に必ず会社名等を記入すること。

［備考］

別紙１－１（２／２）

会社名

担　当

ＴＥＬ

ＦＡＸ

音声サービス（Ｑ９３１－ａ）

発信時の呼設定メッセージの通信可能性に関する情報要素

［パターン　　／　　］　（複数パターンの場合には、用紙を複写して記入すること。）

低位レイヤ整合性（ＬＬＣ）		
指定する・省略する		
オクテット	コーディング	
1	0 1 1 1 1 1 0 0	7C
2		
3		
3 a		
4		
4 a		
4 b		
5		
5 a		
5 b		
5 c		
5 d		
6		
6 a		
7		
7 a		

高位レイヤ整合性（ＨＬＣ）		
指定する・省略する		
オクテット	コーディング	
1	0 1 1 1 1 1 0 1	7D
2		
3		
4		
4 a		

トラベリングクラスマーク（ＴＣＭ）		
指定する・省略する		
オクテット	コーディング	
1	0 0 0 0 0 0 1 0	0 2
2		
3		
4		
5		
5 a		

［記入上の注意点］

（１）省略されるオクテットには、何も記入せずブランクとすること。

（２）提出する様式には、１枚１枚に必ず会社名等を記入すること。

［備考］

別紙１－２（１／２）

会社名

担　当

ＴＥＬ

ＦＡＸ

データサービス（Ｑ９３１－ａ）

発信時の呼設定メッセージの通信可能性に関する情報要素

［パターン　　／　　］　（複数パターンの場合には、用紙を複写して記入すること。）

伝達能力（ＢＣ）			チャネル識別子		
オクテット	コーディング		オクテット	コーディング	
1	00000100	04	1	00011000	18
2			2		
3			3		
4			3. 1		
4 a			3. 2		
4 b			3. 3		
5					
5 a					
5 b					
5 c					
5 d					
6					
7					

［記入上の注意点］

（１）省略されるオクテットには、何も記入せずブランクとすること。

（２）提出する様式には、１枚１枚に必ず会社名等を記入すること。

［備考］

別紙１－２（２／２）

会社名＿＿＿＿＿＿＿＿
担　当＿＿＿＿＿＿＿＿
ＴＥＬ＿＿＿＿＿＿＿＿
ＦＡＸ＿＿＿＿＿＿＿＿

データサービス（Ｑ９３１－ａ）

発信時の呼設定メッセージの通信可能性に関する情報要素
［パターン　　／　　］　（複数パターンの場合には、用紙を複写して記入すること。）

低位レイヤ整合性（ＬＬＣ）			高位レイヤ整合性（ＨＬＣ）			トラベリングクラスマーク（ＴＣＭ）		
指定する・省略する			指定する・省略する			指定する・省略する		
オクテット	コーディング		オクテット	コーディング		オクテット	コーディング	
1	0 1 1 1 1 1 0 0	7C	1	0 1 1 1 1 1 0 1	7D	1	0 0 0 0 0 0 1 0	0 2
2			2			2		
3			3			3		
3 a			4			4		
4			4 a			5		
4 a						5 a		
4 b								
5								
5 a								
5 b								
5 c								
5 d								
6								
6 a								
7								
7 a								

［記入上の注意点］
（１）省略されるオクテットには、何も記入せずブランクとすること。
（２）提出する様式には、１枚１枚に必ず会社名等を記入すること。

［備考］

別紙１－３（１／２）

会社名
担　当
ＴＥＬ
ＦＡＸ

Ｇ４ＦＡＸサービス（Ｑ９３１－ａ）

発信時の呼設定メッセージの通信可能性に関する情報要素

［パターン　　／　　］（複数パターンの場合には、用紙を複写して記入すること。）

伝達能力（ＢＣ）			チャネル識別子		
オクテット	コーディング		オクテット	コーディング	
1	0 0 0 0 0 1 0 0	0 4	1	0 0 0 1 1 0 0 0	1 8
2			2		
3			3		
4			3. 1		
4 a			3. 2		
4 b			3. 3		
5					
5 a					
5 b					
5 c					
5 d					
6					
7					

［記入上の注意点］

（１）省略されるオクテットには、何も記入せずブランクとすること。

（２）提出する様式には、１枚１枚に必ず会社名等を記入すること。

［備考］

別紙１－３（２／２）

会社名

担　当

ＴＥＬ

ＦＡＸ

Ｇ４ＦＡＸサービス（Ｑ９３１－ａ）

発信時の呼設定メッセージの通信可能性に関する情報要素

［パターン　　／　　］　（複数パターンの場合には、用紙を複写して記入すること。）

低位レイヤ整合性（ＬＬＣ）			高位レイヤ整合性（ＨＬＣ）			ﾄﾗﾍﾞﾘﾝｸﾞｸﾗｽﾏｰｸ（ＴＣＭ）		
指定する・省略する			指定する・省略する			指定する・省略する		
ｵｸﾃｯﾄ	コーディング		ｵｸﾃｯﾄ	コーディング		ｵｸﾃｯﾄ	コーディング	
１	０１１１１１００	７Ｃ	１	０１１１１１０１	７Ｄ	１	０００００００１０	０２
２			２			２		
３			３			３		
３ａ			４			４		
４			４ａ			５		
４ａ						５ａ		
４ｂ								
５								
５ａ								
５ｂ								
５ｃ								
５ｄ								
６								
６ａ								
７								
７ａ								

［記入上の注意点］

（１）省略されるオクテットには、何も記入せずブランクとすること。

（２）提出する様式には、１枚１枚に必ず会社名等を記入すること。

［備考］

別紙１－４（１／２）

会社名

担　当

ＴＥＬ

ＦＡＸ

Ｈ０サービス

発信時の呼設定メッセージの通信可能性に関する情報要素

［パターン　　／　　］　（複数パターンの場合には、用紙を複写して記入すること。）

伝達能力（ＢＣ）			チャネル識別子		
ｵｸﾃｯﾄ	コーディング		ｵｸﾃｯﾄ	コーディング	
1	00000100	04	1	00011000	18
2			2		
3			3		
4			3. 1		
4 a			3. 2		
4 b			3. 3		
5					
5 a					
5 b					
5 c					
5 d					
6					
7					

［記入上の注意点］

（１）省略されるオクテットには、何も記入せずブランクとすること。

（２）提出する様式には、１枚１枚に必ず会社名等を記入すること。

［備考］

別紙１－４（２／２）

会社名
担　当
ＴＥＬ
ＦＡＸ

Ｈ０サービス

発信時の呼設定メッセージの通信可能性に関する情報要素
［パターン　　／　　］（複数パターンの場合には、用紙を複写して記入すること。）

低位レイヤ整合性（ＬＬＣ）			高位レイヤ整合性（ＨＬＣ）			トラベリングクラスマーク（ＴＣＭ）		
指定する・省略する			指定する・省略する			指定する・省略する		
オクテット	コーディング		オクテット	コーディング		オクテット	コーディング	
1	01111100	7C	1	01111101	7D	1	00000010	02
2			2			2		
3			3			3		
3 a			4			4		
4			4 a			5		
4 a						5 a		
4 b								
5								
5 a								
5 b								
5 c								
5 d								
6								
6 a								
7								
7 a								

［記入上の注意点］
（１）省略されるオクテットには、何も記入せずブランクとすること。
（２）提出する様式には、１枚１枚に必ず会社名等を記入すること。

［備考］

別紙１－５（１／２）

会社名
担　当
ＴＥＬ
ＦＡＸ

Ｈ１サービス

発信時の呼設定メッセージの通信可能性に関する情報要素

［パターン　／　］　（複数パターンの場合には、用紙を複写して記入すること。）

伝達能力（ＢＣ）			チャネル識別子		
オクテット	コーディング		オクテット	コーディング	
1	00000100	04	1	00011000	18
2			2		
3			3		
4			3. 1		
4 a			3. 2		
4 b			3. 3		
5					
5 a					
5 b					
5 c					
5 d					
6					
7					

［記入上の注意点］

（１）省略されるオクテットには、何も記入せずブランクとすること。

（２）提出する様式には、１枚１枚に必ず会社名等を記入すること。

［備考］

別紙１－５（２／２）

会社名

担　当

ＴＥＬ

ＦＡＸ

Ｈ１サービス

発信時の呼設定メッセージの通信可能性に関する情報要素

[パターン　／　]　（複数パターンの場合には、用紙を複写して記入すること。）

低位レイヤ整合性（ＬＬＣ）			高位レイヤ整合性（ＨＬＣ）			トラベリングクラスマーク（ＴＣＭ）		
指定する・省略する			指定する・省略する			指定する・省略する		
オクテット	コーディング		オクテット	コーディング		オクテット	コーディング	
1	01111100	7C	1	01111101	7D	1	00000010	02
2			2			2		
3			3			3		
3a			4			4		
4			4a			5		
4a						5a		
4b								
5								
5a								
5b								
5c								
5d								
6								
6a								
7								
7a								

[記入上の注意点]

（１）省略されるオクテットには、何も記入せずブランクとすること。

（２）提出する様式には、１枚１枚に必ず会社名等を記入すること。

[備考]

別紙１－６（１／２）

会社名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

担　当＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ＴＥＬ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ＦＡＸ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

音声サービス（ＪＳ－１１５７２）

発信時の呼設定メッセージの通信可能性に関する情報要素

［パターン　／　］　（複数パターンの場合には、用紙を複写して記入すること。）

送信完了			伝達能力(ＢＣ)			チャネル識別子		
指定する・省略する			――――			――――		
オクテット	コーディング		オクテット	コーディング		オクテット	コーディング	
1	10100001	A1	1	00000100	04	1	00011000	18
			2			2		
			3			3		
			4			~~3. 1~~	――――	
			~~4 a~~	――――		3. 2		
			~~4 b~~	――――		3. 3		
			5					
			5 a					
			5 b					
			5 c					
			5 d					
			6					
			7					

［記入上の注意点］

（１）省略されるオクテットには、何も記入せずブランクとすること。

（２）提出する様式には、１枚１枚に必ず会社名等を記入すること。

（３）伝達能力（ＢＣ）のオクテット４ａ，４ｂ及びチャネル識別子のオクテット３．１は使用しないこと。

［備考］

別紙１－６（２／２）

会社名
担　当
ＴＥＬ
ＦＡＸ

音声サービス（ＪＳ－１１５７２）

発信時の呼設定メッセージの通信可能性に関する情報要素

［パターン　　／　　］　（複数パターンの場合には、用紙を複写して記入すること。）

低位レイヤ整合性（ＬＬＣ）			高位レイヤ整合性（ＨＬＣ）		
指定する・省略する			指定する・省略する		
ｵｸﾃｯﾄ	コーディング		ｵｸﾃｯﾄ	コーディング	
1	0 1 1 1 1 1 0 0	7Ｃ	1	0 1 1 1 1 1 0 1	7Ｄ
2			2		
3			3		
3 a			4		
4			4 a		
4 a					
4 b					
5					
5 a					
5 b					
5 c					
5 d					
6					
6 a					
7					
7 a					

［記入上の注意点］

（１）省略されるオクテットには、何も記入せずブランクとすること。

（２）提出する様式には、１枚１枚に必ず会社名等を記入すること。

［備考］

別紙１－７（１／２）

会社名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
担　当＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
ＴＥＬ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
ＦＡＸ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

データサービス（ＪＳ－１１５７２）

発信時の呼設定メッセージの通信可能性に関する情報要素
［パターン　　／　　］（複数パターンの場合には、用紙を複写して記入すること。）

送信完了			伝達能力（ＢＣ）			チャネル識別子		
指定する・省略する			――――			――――		
オクテット	コーディング		オクテット	コーディング		オクテット	コーディング	
1	10100001	A1	1	00000100	04	1	00011000	18
			2			2		
			3			3		
			4			~~3. 1~~		
			~~4 a~~			3. 2		
			~~4 b~~			3. 3		
			5					
			5 a					
			5 b					
			5 c					
			5 d					
			6					
			7					

［記入上の注意点］

（１）省略されるオクテットには、何も記入せずブランクとすること。

（２）提出する様式には、１枚１枚に必ず会社名等を記入すること。

（３）伝達能力（ＢＣ）のオクテット４ａ，４ｂ及びチャネル識別子のオクテット３．１は使用しないこと。

［備考］

別紙１－７（２／２）

会社名＿＿＿＿＿＿＿＿
担　当＿＿＿＿＿＿＿＿
ＴＥＬ＿＿＿＿＿＿＿＿
ＦＡＸ＿＿＿＿＿＿＿＿

データサービス（ＪＳ－１１５７２）

発信時の呼設定メッセージの通信可能性に関する情報要素

［パターン　／　］（複数パターンの場合には、用紙を複写して記入すること。）

低位レイヤ整合性（ＬＬＣ）			高位レイヤ整合性（ＨＬＣ）		
指定する・省略する			指定する・省略する		
オクテット	コーディング		オクテット	コーディング	
1	0 1 1 1 1 1 0 0	7 C	1	0 1 1 1 1 1 0 1	7 D
2			2		
3			3		
3 a			4		
4			4 a		
4 a					
4 b					
5					
5 a					
5 b					
5 c					
5 d					
6					
6 a					
7					
7 a					

［記入上の注意点］

（１）省略されるオクテットには、何も記入せずブランクとすること。

（２）提出する様式には、１枚１枚に必ず会社名等を記入すること。

［備考］

別紙１－８（１／２）

会社名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
担　当＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
ＴＥＬ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
ＦＡＸ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Ｇ４ＦＡＸサービス（ＪＳ－１１５７２）

発信時の呼設定メッセージの通信可能性に関する情報要素

［パターン　　／　　］　（複数パターンの場合には、用紙を複写して記入すること。）

送信完了			伝達能力（ＢＣ）			チャネル識別子		
指定する・省略する								
オクテット	コーディング		オクテット	コーディング		オクテット	コーディング	
1	10100001	A1	1	00000100	04	1	00011000	18
			2			2		
			3			3		
			4			~~3.1~~		
			~~4a~~			3.2		
			~~4b~~			3.3		
			5					
			5a					
			5b					
			5c					
			5d					
			6					
			7					

［記入上の注意点］

（１）省略されるオクテットには、何も記入せずブランクとすること。

（２）提出する様式には、１枚１枚に必ず会社名等を記入すること。

（３）伝達能力（ＢＣ）のオクテット４ａ，４ｂ及びチャネル識別子のオクテット３．１は使用しないこと。

［備考］

別紙１－８（２／２）

会社名

担　当

ＴＥＬ

ＦＡＸ

Ｇ４ＦＡＸサービス（ＪＳ－１１５７２）

発信時の呼設定メッセージの通信可能性に関する情報要素

［パターン　／　］　（複数パターンの場合には、用紙を複写して記入すること。）

低位レイヤ整合性（ＬＬＣ）			高位レイヤ整合性（ＨＬＣ）		
指定する・省略する			指定する・省略する		
オクテット	コーディング		オクテット	コーディング	
1	0 1 1 1 1 1 0 0	7C	1	0 1 1 1 1 1 0 1	7D
2			2		
3			3		
3 a			4		
4			4 a		
4 a					
4 b					
5					
5 a					
5 b					
5 c					
5 d					
6					
6 a					
7					
7 a					

［記入上の注意点］

（１）省略されるオクテットには、何も記入せずブランクとすること。

（２）提出する様式には、１枚１枚に必ず会社名等を記入すること。

［備考］

別紙２－１

会社名
担　当
ＴＥＬ
ＦＡＸ

共通チャネル形信号方式相互接続試験条件リスト（Ｑ９３１－ａ）

Ｎｏ．	項　目	選択パラメータ	備　考
1	プロトコル識別子	①4　2	
2	呼番号長	①2	
3	着番号のオクテット3	①８０　②その他	その他の時はオクテット3のみ記入する（　　）
4	発番号のオクテット3	①８０　②その他	その他の時はオクテット3のみ記入する（　　）
5	発番号のオクテット３ａ	①省略　②その他	その他の時はオクテット3ａのみ記入する（　　）
6	リスタート受信時の手順	①ＡＣＫをかえす	リスタートの範囲はチャネル毎、インタフェース毎、全インタフェースの3種がありうる
7	Ｄｐチャネルを含むインタフェース(5B+Dp) に対するチャネル識別子のオクテット３．１	①省略 ②インタフェースＩＤ＝０として送出する	いずれでも可
8	Ｈ０／Ｈ１通信のためのインタフェースに対するチャネル識別子のオクテット３．１	①インタフェースＩＤ＝１として送出する	

［記入上の注意点］

（１）提出される様式には、１枚１枚必ず会社名等を記入すること。

別紙２－２

会社名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
担　当＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
ＴＥＬ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
ＦＡＸ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

データサービス（回線交換　ｖ．１１０同期）相互接続試験条件リスト

Ｎｏ．	項　　目	選択パラメータ	備　　考
1	ＤＴＥの速度	①９６００ｂｐｓ	
2	クロック	①ＳＴ２及びＲＴ	
3	送受信データ	①モデムテスタ５１１（2^9－１）パターン	
4	半２重／全２重	①全２重	
5	ＳビットとＤビットの整合	①対応する　②対応しない	厳密な整合を期待しない
6	回路１０６Ｎビット	①２４ビット相当以上	
7	インバンドパラメータ交渉	①提供しない	
8	ＢＣ，ＨＬＣ，ＬＬＣ	ＴＴＣでの検討結果に合致させる	詳細コーディングは別紙

［記入上の注意点］

（１）提出される様式には、１枚１枚必ず会社名等を記入すること。

別紙２－３

会社名＿＿＿＿＿＿＿＿

担　当＿＿＿＿＿＿＿＿

ＴＥＬ＿＿＿＿＿＿＿＿

ＦＡＸ＿＿＿＿＿＿＿＿

Ｈ０サービス相互接続試験条件リスト

Ｎｏ．	項　　目	選択パラメータ	備　　考
1	ＤＴＥの速度	①３８４ｋｂｐｓ	
2	送受信データ	モデムテスタ疑似乱数パターン ①$2^{15}-1$　②$2^{20}-1$	
3	半２重／全２重	①全２重	
4	ＢＣ，ＨＬＣ，ＬＬＣ	ＴＴＣでの検討結果に合致させる	詳細コーディングは別紙

［記入上の注意点］

（１）提出される様式には、１枚１枚必ず会社名等を記入すること。

別紙２－４

会社名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
担　当＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
ＴＥＬ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
ＦＡＸ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Ｈ１サービス相互接続試験条件リスト

Ｎｏ．	項　　　目	選択パラメータ	備　　考
1	ＤＴＥの速度	①１５３６ｋｂｐｓ	
2	送受信データ	モデムテスタ疑似乱数パターン ①$2^{15}$－１　②$2^{20}$－１	
3	半２重／全２重	①全２重	
4	ＢＣ，ＨＬＣ，ＬＬＣ	ＴＴＣでの検討結果に合致させる	詳細コーディングは別紙

［記入上の注意点］

（１）提出される様式には、１枚１枚必ず会社名等を記入すること。

別紙２－５

会社名＿＿＿＿＿＿＿＿
担　当＿＿＿＿＿＿＿＿
ＴＥＬ＿＿＿＿＿＿＿＿
ＦＡＸ＿＿＿＿＿＿＿＿

共通チャネル形信号方式相互接続試験条件リスト（ＪＳ－１１５７２）

Ｎｏ．	項　　目	選択パラメータ	備　　考
1	プロトコル識別子	①０８	
2	呼番号長	①２	
3	着番号のオクテット３	①８０　②その他	その他の時はオクテット３のみ記入する（　）
4	発番号のオクテット３	①８０　②その他	その他の時はオクテット３のみ記入する（　）
5	発番号のオクテット３ａ	①省略　②その他	その他の時はオクテット３ａのみ記入する（　）
6	リスタート受信時の手順	①ＡＣＫをかえす	リスタートの範囲はチャネル毎、全インタフェースの２種がありうる
7	分割発呼手順	①あり ②なし	
8	分割着呼手順	①あり ②なし	

［記入上の注意点］

（１）提出される様式には、１枚１枚必ず会社名等を記入すること。

別紙 3-1

（注）試験終了後速やかに報告のこと

受信		発信	会社名、部課名	機種名
	殿		発信者名	

FAX

音声サービス相互接続試験（共通チャネル形信号方式）チェックリスト

項番	チェック項目	判定基準										
1	専用線パス設定	正常にデータリンクが設定されること。（判定○、または×）（ユーザ／網の別）										
2	発信	正常に発信でき相手に着信できること。（判定○、または×）										
3	着信	正常に着信できること。（判定○、または×）										
4	受話音量	受話音量（判定：大きい、小さい、適当、無音）										
5	受話音質	受話音質（判定○、または×）（×の場合は理由も記入）										
総合評価		（判定○、または×）										
試験日時			月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :
備考												

別紙 3-2

（注）試験終了後速やかに報告のこと

受信		発信	会社名、部課名	機　種　名
	殿		発信者名	

FAX

データサービス（回線交換、V．１１０同期）相互接続試験（共通チャネル形信号方式）チェックリスト

項番	チェック項目	判　定　基　準										
1	専用線パス設定	正常にデータリンクが設定されること。 （判定○、または×）（ユーザ／網の別）										
2	発　信	正常に発信でき相手に着信できること。 （判定○、または×）										
3	データ送受信	データの送受信ができること。 （判定○、または×）										
4	着　信	正常に着信でき応答できること。 （判定○、または×）										
総　合　評　価　（判定○、または×）												
試　験　日　時			月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :
備　考												

別紙 3-3

（注）試験終了後速やかに報告のこと

受信		発信	会社名、部課名	機　種　名
	殿		発信者名	

FAX

G４FAXサービス相互接続試験（共通チャネル形信号方式）チェックリスト

項番	チェック項目	判　定　基　準										
1	専用線パス設定	正常にデータリンクが設定されること。 （判定○、または×）（ユーザ／網の別）										
2	送　信	正常に送信できること。 （○：正常、×：通信不能、 △：条件付きで通信可能）										
3	受　信	正常に受信できること。 （○：正常、×：通信不能、 △：条件付きで通信可能）										
総　合　評　価　（判定○、または×）												
試　験　日　時			月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :
備　考												

（注）△の場合は条件を記入する。

別紙 3-4

（注）試験終了後速やかに報告のこと

<table>
<tr><td rowspan="2">受
信</td><td></td><td rowspan="2">発
信</td><td>会社名、部課名</td><td>機　種　名</td></tr>
<tr><td>殿</td><td>発信者名</td><td></td></tr>
</table>

FAX

H０サービスス相互接続試験（共通チャネル形信号方式）チェックリスト

項番	チェック項目	判　定　基　準										
1	専用線パス設定	正常にデータリンクが設定されること。（判定○、または×）（ユーザ／網の別）										
2	発　信	正常に発信でき相手に着信できること。（判定○、または×）										
3	データ送受信	データの送受信ができること。（判定○、または×）										
4	着　信	正常に着信でき応答できること。（判定○、または×）										
総　合　評　価　（判定○、または×）												
試　験　日　時			月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :
備　考												

別紙 3-5

（注）試験終了後速やかに報告のこと

受信		発信	会社名、部課名	機種名
	殿		発信者名	

FAX

H I サービスス相互接続試験（共通チャネル形信号方式）チェックリスト

項番	チェック項目	判定基準										
1	専用線パス設定	正常にデータリンクが設定されること。（判定○、または×）（ユーザ／網の別）										
2	発信	正常に発信でき相手に着信できること。（判定○、または×）										
3	データ送受信	データの送受信ができること。（判定○、または×）										
4	着信	正常に着信でき応答できること。（判定○、または×）										
総合評価（判定○、または×）												
試験日時			月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :	月 日 : ～ :
備考												

別紙 4

ＰＢＸ相互接続試験結果表
（共通チャネル形信号方式）

＿＿＿＿＿＿＿＿サービス相互接続試験

試験日　　　月　　日

着側／発側								
	＼							
		＼						
			＼					
				＼				
					＼			
						＼		
							＼	
								＼

判定　○　：　接続可
　　　△　：　条件付きで接続可
　　　×　：　接続不可

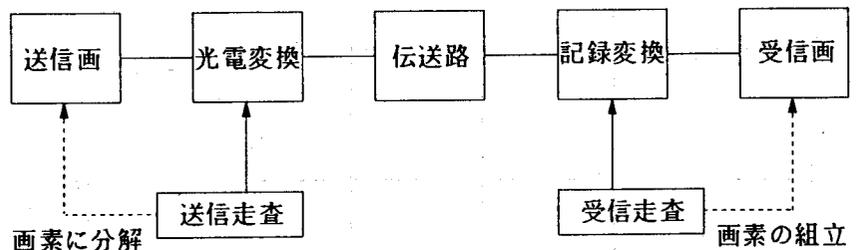
別紙 5

フ ァ ク シ ミ リ

ファクシミリ(Facsimile) は通信回線を用いて文書や図面を遠隔地に送る通信手段で、その歴史は古く、1843年に英国のアレキサンダ・ベインによって発明されました。モールスが電信を発明したのが1837年ですから、わずか 6 年後のことです。

ファクシミリの語源はラテン語の fac simile で、同じように作るの意味です。

ファクシミリではこれを電気的手段によって実現し、その基本構成は図のようになっております。送信画は走査によって画素に分解され、伝黄信号に変換されて伝送路に送られます。受信側では、送られてきた電気信号を記録に適した信号に変換し、走査しながら画素を組み立て、受信画を得ます。

わが国では1928年に、丹羽保次郎博士らによって写真電送機が初めて完成され、天皇即位式の写真が東京ー大阪間で送られました。その後、電子技術の発達にともない光電変換や受信記録の平面走査が可能となり、ファクシミリに適した記録媒体が開発されるなど、使い易く安定したものとなってきました。特に、ファクシミリ信号処理に関する研究が進められ、帯域圧縮、符号化による高速化などのめざましい発達があります。

ファクシミリの基本構成

また、公衆電気通信法改正を契機に、電話網を用いてファクシミリ通信ができるようになり、一般にも広く利用されるようになりました。

ファクシミリは他の通信手段と比較して次のような特長があります。

（1）漢字まじりの文章、図、表などが送信原稿のとおり再現されます。
（2）装置の取扱が容易で、特別な訓練を必要としません。
（3）通信内容が正確に伝わり、記録として残ります。

このテストチャートは 1 次元ランレングス符号化方式を用いたファクシミリで、伝送速度4800b/s, 1 ライン当たり最小処理時間20msec、副走査3.85本／mmの場合、電送時間は約 1 分になります。

F A C S I M I L E

ファクシミリテストチャート　No.4　画像電子学会　©　1 9 8 0
FACSIMILE TEST CHART No.4 THE INSTITUTE OF IMAGE ELECTRONICS ENGINEERS OF JAPAN